「スピリッツをいただく~膝の痛み・心の豊かさ」

●膝の痛み

ラジオを聞いていたら、膝や肩、関節の痛い人に、漢方を使ったこの薬をどうぞ、というコマーシャルがいつの間にか耳に残りました。これほど繰り返されるのは、よほど痛みを抱える人が多いので、経済活動として充分に成り立つからでしょうか。

私も、十年近く前から膝が悪くなり、正座がつらくなりました。いや、もう正座をすることができません。薬を飲んだり、運動をしたり、いろいろ試しましたが、効果のあるものになかなか巡り合いません。

過日、スーパーの洋酒売り場で、膝に効く民間療法の貼り紙が目に付きました。

それによると、レーズン(できれば白い干しぶどう)を洋酒のジンに漬けておくと、1週間ほどでレーズンがジンを吸い込み、アルコール分もほとんど飛ぶそうで、1日2、3回に分け、数粒ずつ食べると膝などの関節痛に効くといいます。

これは、インドやエジプトに紀元前から伝わる療法だそうで、昔の人も膝など関節痛に悩んでいたことがわかります。

●異なるもの

この話を聞いて、「酒は百薬の長」ということわざを思い出しました。アルコールは、飲みすぎると身心に問題を及ぼしますが、適当な量ならば、どんな薬よりも効果があるといいます。お酒好きの言い訳みたいに聞こえますね(笑)。

ところが、先の民間療法では、百薬の長であるお酒と、まったく異なる食材 (レーズン)と組み合わせることで、今までにない効能を発揮するものが生まれるというのです。

ふと、宗教の受け止め方と通じるところがあるのではないかと思いました。

一人ひとりにとって、本当に素晴らしい、意味の深い伝統的な宗教も、自分のものの見方にたって、それだけに没頭して、周りの物事が見えなくなると、 色々な問題を引き起こすことがあります。いわゆる、「原理主義」という理解の 仕方です。

これは、浄土真宗の信者にも見られます。自分の立場の宗教が、まったく正しいのだという自分にとっての理解を、いつの間にか、他の人にも同じであるだろうと受け止める考え方です。そこで終われば、内側にとどまる「原理主義」でしょうが、その自分の思い上がった姿が見えなくなると、こんどは、それを人にも押しつけようとする立場が生まれます。 これは、自分のより所とする宗教の教えは、どんな場合でも、絶対に正しい

と言う主張です。しかし、これが過ぎると、他の立場、異なる意見が耳に入らなくなり、さらには敵対したり、排除や攻撃をしたりする態度になります。本来、宗教は人間の抱える問題解決を目指すものですが、かえって問題を増やすので、「百害あって一利なし」です。

●「自」「他」ともに

とは異なる立場、違ったものの見方があるのだという当たり前のこととと向き合うこと、そして、できれば、それらの立場と交流するところに、もしかすると、 敵対する生き方が超えられていく可能性があると考えるのが健全だと思います。 たとえば、真宗は、絶対に正しい教えだから、世の中の人びとの生き方や、そ

世の中には、色々な主張があります。しかし、基本的には、世の中には、自分

こに起きる出来事には関心を持たないで、真宗だけ学んでいればよいという 主張があれば、他の立場の人びとには、随分と片寄ったものだと聞こえるで しょう。 異なる立場、違ったものの見方をする人びとと、向き合い、交流するという

ことを、私は、現在、浄土真宗本願寺派が推進している教団としての「実践運動」の「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」という言葉に重ねています。 この場合の「自」とは、アミダさまが勧めてくださる念仏を生活習慣にして、信心をよりどころにしようとする私です。

また、「他」とは、それ以外のものをよりどころに、それぞれの人生を生きている人びとです。

異なるもの同士が、共に心豊かになることができるのは、自分の立場を大切にしながらも、異質なものと向き合い交じわることが大切だと思います。

それはまるで、ジンとレーズンが混ざると新しい効果が生まれるように、真 宗のみ教えも社会のさまざまな人びとや課題と向き合うところに新しい展開

が生まれるのではないでしょうか。 どちらも私の大好きな「スピリッツ」をもとにしていますね。

*注:スピリッツとは、アルコールという意味と、宗教的な深い精神性という、二

釋靜芳(本多 靜芳)

合掌

※ご縁のあったあなた! 第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様·御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様·御手紙』を学びにいらっしゃいませんか? お待ちしてます(会費はいずれた姿料 茶葉保 に スチロです)

万行寺第十八世住職

はいずれも資料·茶菓代として千円です)。 「ナムの会」は一月と十二月は休会します。

重の意味がある。